

令和３年度淀川区区政会議第１回安全・安心なまち部会議事要旨

日 時：令和４年２月１５日（火） 午後６時２８分～午後８時２８分

場 所：淀川区役所 ５階 会議室

出席者：

- ・委員８名（８名中）

加藤委員、佐々木委員、杉本委員、田中委員、永野委員、平野委員、山本委員、横山委員

- ・区役所

田口政策企画課長、畑中市民協働課長、浅雛保健福祉課長、舟木市民協働課相談調整担当課長代理、大畑保健副主幹、山村保健福祉課業務調整担当課長代理 ほか

内 容：

- １．開 会

- ２．政策企画課長あいさつ

- ３．議 題

- （１）議長、副議長の選出

- （２）防災情報の発信について

- （３）企業市民の防災について

- （４）地域福祉活動に参加する区民を増やす取り組みについて

- （５）要援護者名簿の充実に向けた方策について

- ４．その他

資 料：

【当日配布資料】

- ・次第、進行表

- ・区政会議部会名簿、座席表

- ・配付資料一覧

- ・ご意見票

- ・淀川区区政会議 全体会議開催にかかる日程調整について

- ・よどマガ２月号

- ・くらしの便利帳（淀川区）

【事前配布資料】

- ・（資料１）令和３年度第１回安全・安心なまち部会

ご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容

1. 開 会

2. 政策企画課長あいさつ

各委員及び担当課、区政会議運営事務局による自己紹介。

3. 議題

(1) 議長及び副議長の選出について

田中委員を議長、永野委員を副議長とすることに決定。(輪番制)

(2) 防災情報の発信について

○区政会議委員の皆様にご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容「防災情報の発信について」について区役所より説明

- ・個人的には情報発信の手法はもうこれで十分じゃないかと思うぐらいきちんとされていると思います。ただ、例えば、災害が起こったときの情報発信が心配です。訓練時の小学校スピーカー(防災無線)等の警報を聞いたことがない。これは具合が悪いので、何らかの形でもっと情報を伝える方法があってもいいのではないかと考えています。(杉本委員)

⇒スピーカーについては、聞こえないというご意見や反対に音が大きすぎるというご意見もいただいております。きめ細やかな対応が必要ですが、聞こえていたものが風向きで聞こえなかったりすることもあるので非常に苦慮しているところです。アナログ放送だったものをデジタル放送に切り替えるなど、できるだけ聞こえるように大阪市危機管理室を中心に真摯に取り組んでおりますので、ご理解賜るようお願いいたします。(舟木市民協働課相談調整担当課長代理)

⇒増加している特殊詐欺を抑止するために淀川警察署から依頼を受けて防災無線で啓発をしておりますが、やはり聞こえない、聞こえすぎという問題が生じております。改善に向けて、危機管理室と調整しながら進めたいと思いますので、よろしくお願いします。(畑中市民協働課長)

- ・平常時の事前準備については、淀川区も紙媒体やインターネットを活用して発信されていると思いますが、発生時に情報を見る側は、どこを見ていいのか分からないという不安があります。ここを絶対見ておいたら大丈夫という安心できる何かを作れないものかと思っています。(横山委員)

⇒区役所では、警報等が出ているときにまずツイッターで情報を発信しています。その他の情報発信として防災LINEがございます。この防災LINEは肝心な情報のみを発信しており、昨年も1回か2回しか出していないです。一方、電子媒体をお持ちでない方にはラジオで情報を得ていただくことになる

かと思います。ただラジオは手回しでないと電池が切れたら聞こえなくなるので、そういうことにも備えていただくとか、幾つもの媒体を使っていただきたいと思っております。(舟木市民協働課相談調整担当課長代理)

⇒ツイッターに登録しておけば、災害情報等をいち早く受け取れるということを知っていただけるとありがたいです。LINEも災害時につながりやすいから登録したほうがいいという理由を伝えていただけるほうがいいです。(横山委員)

⇒ご意見をお伺いし、私どもがツイッターでの情報発信をしているという事実の発信が非常に大事だと思いました。現在はツイッターのフォローを紹介するような防災での広報媒体がございませんので、このご意見をいただいた機会にツイッターの意義を伝えるチラシを作るように検討していきます。(瀧谷市民協働課担当係長)

- ・防災用品をそろえてとか、避難する場所を覚えておきましょうとか、事前準備はもう十分だと思います。地震等の際に、トイレどうするの、水どうするのとか、戸惑う人が多いと思います。起きる前の発信はもう十分だと思いますので、災害が起きた時にどこに聞いたらいいのかをもう十分刷り込むように教えていただければありがたいです。(永野委員)

- ・ツイッター等を見ることができない人も多いので、小学校の通学路にある掲示板に載せてあげたらもっと見る人が増えると思います。掲示板に貼っている内容はいつも同じものという印象があります。たまに、「おっ」て思うことも貼ってあるので、もっと活用できればいいと思います。(山本委員)

⇒淀川区役所が管理している掲示板は七十何箇所あるのですが、皆さんの目を引く興味をそそるようなものを考えて貼るようにいたしますので、よろしくお願いいたします。(畑中市民協働課長)

- ・防災時の情報発信について、このたびのコロナワクチン等の大阪市、府の情報発信を見て不安に感じています。いざ災害になったときに、市や府から下りてくるのを区が待ってということになると、すごく情報が遅くなると思い、不安です。実際、地域の情報を持っている区の職員が区の判断によってきちんと情報を発信できるようにしていただければ安心かなと思います。(永野委員)

⇒ワクチンに関しては、おっしゃるとおり府から市に下りてきた情報を発信しております。どの情報を発信するかは区によっての差配ができますので、皆さんにお知らせしたほうがいいと思う情報を掲示板やツイッターを利用して周知しております。区に下りてきた情報をどう加工して、地域の方により分かりやすくお伝えできるかを工夫しているのが今の実態です。(畑中市民協働課長)

- ・スマホ等に慣れておらず、情報収集はテレビを重要視する方もおられると思います。淀川区でテレビをつくれとは言いませんけれども、できれば大阪がもし

被害受けたときにそのチャンネルをつければ大阪市の状況が分かるみたいなものがあれば、安心できると思います。(杉本委員)

- ご意見のとおりではないですが、ケーブルテレビがございます。地域活動や防災の関係でこんな訓練をやりました等の情報をケーブルテレビで発信しております。今のご意見を踏まえ災害時に、ほかの区とも一緒になるかもしれないですが、何か載せられるようなこと、何か協定でできることがあるようでしたら一回調べて、調整させてもらうようにします。(畑中市民協働課長)
- LINEもツイッターも見ない、というような方への情報発信手段として何がいいのかを考えたときに、青パトがいいと思いました。災害があつて、逃げないといけなとか、津波が来るといときには、例えば、ここが危ないというところについては重点的にでも近所を回るとか、ずっと流していただくとか、そういうことが必要だと思います。(加藤委員)

⇒2年程前に(吹田市の)交番で警察官が襲撃された事件があつた際には、青パトで区内を回りました。また、特殊詐欺抑止等についての防犯面でも青パトを活用しております。車が通れるということが前提ですが、防災の面でも活用できるように検討させてもらいたいと思います。(畑中市民協働課長)

- 防災マップは1年に何回か配って、1年ぐらいたって捨ててもまた絶えず家にはあるというように配布してもらいたいです。災害発災時の情報発信について、区役所が区民の皆さん個々に、全員に対応しているようなツイッター等はしんどいと思います。新しい、早い情報ではないですが、地域との連絡、地域から町会への連絡、町会から班長への連絡みたいな情報共有の方が、隣のおばちゃんが聞きにきても区役所からこういうことを言ってくるから安心してと言えるような方がいいと思います。(佐々木委員)
- 独居の方は、人づてやご近所から聞くことのほうを信用されるし、なじみやすいというのがあるので、区役所から町会に下ろしていってもらうというのをしつついほどやっていただけたらいいと思います。誰かが近所で知っていれば対応できることはいっぱいありますので、誰かが知っていればいいと思います。(平野委員)

(3) 企業市民の防災について

○区政会議委員の皆様にご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容「企業市民の防災について」について区役所より説明

- 部会を越えた区政会議自体の問題ですが、企業に対してお願いばかりで、企業側が情報、意見を言う場がありません。例えばここにオブザーバーで企業に来ていただいて、意見をもらう場をつくってあげることからスタートしたほうが議論が深めやすいんじゃないかと思います。(横山委員)

⇒次の区政会議委員を決めるときに視野に入れながらと考えております。(田口政策企画課長)

- ・防災に関心のある企業があったとしても、どこに何を聞いていいか分からない。ふだんから関心を持っている企業さんもおられるので、窓口をまずつけてあげるのがいいと思います。関心のあるところをどんどん探していったほうがいいような気がします。(杉本委員)

⇒企業の地域活動への参加については何年か前から少しずつでも広げていこうとしておりましたが、防災のほうへも参加というご指摘だと思しますので、今後検討させていただきますのでよろしくお願いします。(畑中市民協働課長)

- ・大企業は何の問題を抱えてるのかを教えてくださいたいです。(佐々木委員)

⇒非常時に食べ物を支給できる企業が自ら「非常時に食べ物ありますよ」と発信するばかりではなく、食べ物を本当に必要としているところの情報が欲しいと思います。また、物々交換のようなチラシのようなものを作り、ポストに入れておくだけでも全然違うと思います。(山本委員)

- ・「企業市民の防災について」って、よく分かりません。地震の際に社員が帰宅困難になったとか、宿泊施設をどうするかとか、企業で働いている人、学生さんにとってということなのか、それとも暮らしている私たち住民とどこかで交流ができないかということなのか、論点がよく分かりません。(永野委員)

⇒両方です。さらに一般的に企業は身体の動く方が多く、地域は高齢者が多いと言えと思いますが、地域では場所を提供できる、例えば会館にある物資は使ってもらってもいいですよとお互いに助け合えればいいと思います。企業によってはCSRを考えておられて、協力したいというお申出があることもあります。逆に私たちも場所を提供していただける代わりに、備蓄のお水を持っていくなどもできたらいいと思います。(舟木市民協働課相談調整担当課長代理)

- ・淀川区で働いておられる方の中には避難場所を知らず、災害時に右往左往される方も多くおられると思います。また、避難場所に働いておられる方が来られるということも考察として持っておく必要があると思います。(杉本委員)

⇒企業という視点が欠けていることは確かにありますので、防災や地域活動も含めて参画いただけるように検討していきます。(畑中市民協働課長)

- ・私も勤めていた頃、会社の防災訓練はありましたが、避難場所を知りませんでした。地域での避難場所は、学校とかわかるんですが、会社へ務めているときには、どこへ逃げたらいいのかわかりませんでした。新大阪も企業が多いので、大事なことだと思います。新大阪の帰宅困難者協議会はどういうメンバーですか。(田中議長)

⇒帰宅困難者協議会は、淀川区と東淀川区の地域活動協議会の皆さんや鉄道事

業者、ホテルや学校等三十幾つの企業や団体に構成されています。(舟木市民協働課相談調整担当課長代理)

(4) 地域福祉活動に参加する区民を増やす取り組みについて

○区政会議委員の皆様にご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容「地域福祉活動に参加する区民を増やす取り組みについて」について区役所より説明

- ・参加者を増やすという意味では、行事の数を増やすのか、一つの行事の参加人数を増やすのかのどちらかになると思います。行事を増やすというのは現状ではなかなか難しいと思います。少しずつでいいですから交流を深めるような努力が必要だと思います。(佐々木委員)
 - ・高齢者だけでは限界があり、若い人達との交流が必要だと思います。ツイッターやLINEで呼びかけはしていますが、若者がついてきてくれません。何か具体的なことがあれば私も皆さんの意見が聞けたらなと思います。(加藤委員)
 - ・コロナ禍において若者が地域で何ができるかを考えたときに、高齢者はツイッターを使いにくい。若者はこれを使える。そこを結んであげて、若者がツイッターの登録を手伝ってあげるという場所をつくれば、問題が解決すると思います。(横山委員)
 - ・私の地域では、他の地域の大学生を行事に呼んでいます。地域に住んでいる若い人は出ていくので、小学校や中学校を巻き込んで行事ができればいいと思います。新大阪には学校がいっぱいあるので、大学生に来てもらうとか、そんなことを考えたらいいいんじゃないかなと思います。(平野委員)
 - ・今の地域福祉活動をそのまま維持するというのは無理だと思います。若い人たちを取り込むといっても、彼ら自身が面白いと思わない限り来ないし、そのためには地域福祉活動自体を見直さないといけない。ここだけは守りたいという点を担ってもらう工夫を考えないといけないと思います。(永野委員)
 - ・人を集めるにはある程度強制力が必要だと僕は思います。なかなかやりにくいとは思いますが、それぐらいの強権でないとなかなか人は集まってくれないと思います。(杉本委員)
 - ・子ども食堂等で高齢者の方とオンラインでお話ができる機会が作れるのであれば、そのときに高校生でも大学生でもツイッターのこととか教えてあげたら、会わなくてもつながりができるのかなと思います。(山本委員)
- ⇒子ども食堂をやりたいというお声はよく聞きます、今のご意見のようなZoomやオンラインで何かできればいいとは思っています。(浅籬保健福祉課長)

(5) 要援護者名簿の充実に向けた方策について

○区政会議委員の皆様にご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容「要援護者名簿の充実に向けた方策について」について区役所より説明

・①要援護者名簿には何が載っているのですか。②名簿の提供先は町会ですか。

③名簿の管理責任者は誰ですか。(永野委員)

⇒①ご本人さんに必要事項を記入してくださいということでお願いしておりますのは世帯の状況や緊急時の連絡先、福祉サービスの利用状況、支援の際に配慮が必要な事柄等を書いていただいております。

②区役所が認定した地域団体等、民生委員、児童委員、区社会福祉協議会に対して情報提供させていただきますという書き方にさせていただいております。

③管理の責任者は、地域活動協議会と協定を結ばせていただいて、個人情報を持っていただく方を、だいたい町会の会長さんとかが多いんですけど、事前に提出いただいております。(大畑保健副主幹)

・要援護者名簿は区民には広く伝わっていないという認識でいいですか。(横山委員)

⇒年に1回要援護者名簿を送らせていただくときに、「よどマガ!」に掲載しております。区社協だよりも事業紹介の記事に掲載いただいております。(大畑保健副主幹)

⇒不審なものには個人情報を渡さない、不審な電話には応えない、がさんざん啓発されている中で、手紙がご本人に届いて、近隣の方に聞いてもご存じないようであれば、そこに個人情報を提供しようとは思わないと思います。町会長や隣近所の方がそれは区役所の業務なので、返事をしておいたほうがいいよとお墨つきがあれば初めて個人情報を出すような気がします。アナログの組織構成をうまく使って、その人たちに協力を求めるしかないと思います。(横山委員)

・要援護者名簿に掲載してもらおうとどんなメリットがあるんですか。(杉本委員)

⇒地域における日頃の見守り活動や災害時の支援の準備などに活用しますということを書かせていただいております。(大畑保健副主幹)

⇒大地震になったときに必ず助けにきてくれると思いこまれるのはつらいです。町会で役をしているといっても私たちもまずは自分たちが助かることを考え、要援護者はその後になってしまいます。私自身もそこに葛藤があり、どう判断したらいいか教えてください。(杉本委員)

⇒同意書を取る際には、情報提供に同意することで、ご本人が希望しておられる見守りの支援が保障されるものではありませんと記載しております。(大畑保健副主幹)

・名簿は個人情報なので漏らさないように取り扱っていますが、災害時に町会長が1軒ずつ行くというのは無理だと思います。隣近所の方に何かあったらこの

人見てくださいねということができればいいですが、そういうわけには行かない何か難しい感じがしてます。(佐々木委員)

・要援護者の対象は独居の方だけでしょうか。(杉本委員)

⇒要援護者名簿の対象は家族状況等は全く関係なく、障がい等の程度によって一人では避難できないであろう方です。

・個々の状況を全て把握することは地域の日頃の見守りでも難しいと思います。住民同士の顔が見える関係づくりを進めて、地域内での支え合いを推進することがこの事業の目的です。どうしてもこういう事業をやると、私たちが助けないあかんとか、こうしてもらわないといけないというところがクローズアップされますが、地域における日頃の見守り活動ということで、緩やかな見守り活動、お互いに顔見知りになるとか、そういったところにつなげていただきたいという思いでございます。(大畑保健副主幹)

・要援護者の手紙を送付する際に理由、「要介護5なのであなたに送付しています」を書いていますか。書かれていないのであれば、不信感につながって返信の頻度が低い要因の一つのように思います。(横山委員)

⇒ご本人様あての文書には記載されておりません。来年度、チラシを作成する際に考慮させていただきます。(大畑保健副主幹)

4. その他

・今日は非常に建設的な意見でいい会議だったと思いますが、こういう配席でやってしまうと、区に対する苦情とクレームと要望だけで終わる可能性が高いと思います。これは私の個人的な意見ですが、この会議の席を交互に区役所の方も入っていただくとか、何か対立姿勢になっている構図を変えたほうが、もっと意見が言いやすい場になるような気がするので、改善をいただければと思います。(横山委員)

⇒検討させていただきます。(田口政策企画課長)